

大学における教育と研究（要旨）

千葉大学名誉教授

松 本 胖

近年、わが国においては、大学教育を志望するものが増加の一途をたどっており、それに従って大学の数も急激に増加している。しかし、そのすべてが大学における教育や研究はいかにあるべきかを真に理解しているか、との問いに対しては、必ずしも満足な答えを得るまでに至っていない。従って、少なくとも大学人は、大学とは何か、その教育と研究はいかにすべきかを常に念頭におき、強固な信念のもとに職責を果たす努力をすべきであると考えて、このようなテーマを選んだ。

I 大学人の心構え

大学とは、学術の中心として、専門の学芸を教授・研究する最高学府である、と定義されている。すなわち、大学は学術の中心として、それぞれの専門領域の学問を教授し、研究することを目的としており、とくに専門的な技能者、教育者、指導者、研究者などを育成する場であるといえる。従って、専門的学術を教授し研究することのできる十分な施設、設備の必要なことはいままでもないが、それにも増して十分な専門的知識と指導性をもつ優秀な教官の存在が重要であり、更に、教育に堪え、研究できる能力をもつ学生が必要である。しかも、学問は常に進歩し発展するので、新しい知識の吸収や研究の進展を計るのみでなく、広く学際的の研究も必要となり、卒前のみならず卒後教育、更には生涯教育の重要性も不可欠となってきた。これに対して、大学における教育と研究はどうすべきか、将来いかにすべきかを常に検討し、実現を計ることは大学人の責務であると考えている。

II 大学における教育と研究の変遷

大学における教育と研究のあり方は、かなりの変革がみられ、とくに関連の深い医学教育の領域において著しいと考えられる。単に疾病の治療を主とする治療医学の時代から、最近は人類の健康の保持・増進という社会的要請に応ずる包括医学へと拡大し、個人から集団へ発展し、人類の生存や幸福を追求する方向へ進み、総合的医学の考え方を重視する傾向が見られる。1953年の米国医科大学連合での「医学教育の目標」は、体系的な知識を詳細に与えることではなく、学生が医学全般に应用できる基本的原則を学び、事象や経験を正確に判断できるように習慣づけ、保健や疾病の問題を解決するに当り、これらの原則および判断力を駆使できる能力を伸展できるように配慮すべきである、としている。これにより、多種の教授・学習方法を効果的に組み合わせ、学生の自主的な学習を促進し、早くから病人や家族に接触させて学習の意欲を高めるとともに医師としての使命感、倫理感を体得させる方法をとっている。わが国でも十数年前から、単なる講義主義より実地教育に重点をおき、実習時間の増加とともに小人数教育や問題解決学習などの新しい教育方法が導入されている。

研究面においても、個人の独創的な研究のあり方から、広く専門分野のものが相互に協力、援助し合う協同研究や総合研究の方向が多くなり、規模も大きくなり、複雑化の傾向を辿っている。従って、大

